

温故知新

静岡県立中央図書館所蔵の貴重書紹介(26) 平成13年7月1日

遠江国地誌シリーズ(その2)

『掛川誌藁』(S230/10, S230/10-2)

『掛川誌藁』は掛川藩主太田資順が藩政の参考資料とするため、文化2(1805)年に藩士齋田茂先と山本忠英に編さんを命じた全15巻の地誌です。当時の掛川藩領地があった佐野、山名、豊田、周智、城東、榛原(遠江国)、志太(駿河国)、那賀、加茂(伊豆国)の各郡200数十カ村を踏査して書き記されています。

当初の編さん者である茂先(安永3(1774)年~文化12(1815)年)は太田資愛、資順、資言、資始の4代の藩主に仕え、資順の時、『掛川誌藁』の編さんを命じられました。しかし茂先は巻首~巻6までを編さんしたところで死去してしまい、巻7より山本忠英に引き継がれます。忠英は巻7~14を執筆し、さらに巻1~巻6まで巻末に附録のかたちで茂先の文を補いました。

『掛川誌藁』の原本の所在は定かではなく、当館では2種類の写本を所蔵しています。一組の写本(S230/10)は巻1~14までの全14巻で、巻12の末に「掛川志十二本明治七年七月校正中邨元起」と墨書され、また、昭和3(1928)年に巻首~巻12までの『掛川誌藁』を刊本にした駿河郷土研究会の橋本博による朱書きで補われています。巻13と14は、大日本報徳社所蔵の写本である「山崎氏寄贈本」を謄写したことが確認されています。

もう一組の写本(S230/10-2)は巻首~巻12までの全13巻です。この写本にも橋本博による朱書きが見られ、同氏が『掛川誌藁』を刊本にする際に当館所蔵の写本を熟読したことがうかがえます。尚、当館所蔵の写本への朱書きは、「山崎氏寄贈本」に遠州の歌人、国学者である石川依平(寛政3(1791)年~安政6(1859)年)とその門人によって書き込まれていた校閲文を、橋本博が書写したものです。

巻首では東海道や遠江の国名、郡、郷村、駅家などについて由来が記されています。巻1~巻6までは掛川城の所在地であり、藩領の大部分を占めた佐野郡、巻7は山名郡と豊田郡、巻8、9は周智郡、巻10、11は城東郡、榛原郡について記されています。次に飛地に移り、巻12は志太郡、巻13は那賀郡、巻14は加茂郡の記述となります。個々の郡内の記述は、郡名、区域、郷などについて記した後、藩領である村々の石高、戸数、寺社、名所などが続きます。佐野郡には藩領以外の村の記述も含まれています。

参考・引用文献は『古事記』、『日本書紀』などの正史、『今川記』、『曳馬拾遺』など多岐に及びます。巻4では佐野郡の佐野の名は「佐夜中山」より生じたと記され、巻7には『遠江国風土記伝』を著した内山真龍の説が引用されています。さらに巻9では「秋葉山」について、巻11には「質倍陶器(志戸呂焼)」の由緒などが記されており、興味深く読むことができます。刊本もありますので一読することをおすすめします。

【参考図書】

『掛川誌稿』(S230/10-5)

『掛川市誌』(S232/46)